

旅行記

〈2017年7月22日〜7月29日〉

中国内陸部「甘肅省植林地」と日中国交正常化45周年「北京友好団体訪問」の旅

(監修 村田嘉明)

中国の旧友との再会「蘭州」市内

矢野一彌 (善隣訪中団団長・会長)

本年は日中国交正常化45周年にあたります。

国際善隣協会は過去に植林して来た中国各地の内、特に今回は関係の深かった地方を対象に訪問しました。同時に、私がお世話になりました方々とも現地での面会できました。

まず始めに過去数回、訪問、見学したことのある甘肅省「敦煌」について中国国内数ある壁画の中でも特に優れている「敦煌壁画」の研究者、中国一の研究者と言われている王志鵬先生(敦煌研究院・民族宗教文化研

究所)と、お会いしました。世界各国を訪問し研究発表、論文

出版する学者としての王志鵬先生の努力には頭が下がります。近いうちに子どもを日本に留学

させたいという言葉には「日本が大好き」ということであり、「自分と同様に子どもを宜しく指導ください」と言うことだと

理解しました。次に中国大使館文化部欧陽安先生と北京で、お会いすることが

できました。先生が東京中国大使館在職中、特に中国大使館主催のイベント、日中会館での

観櫻会等々開催の折り何かと指導を受け日中友好が永く続くことをいつも心に持っておられました。今回、国際善隣協会一行

全員を迎え下され長い間、お話し

ができましたことについて感謝申し上げます。

最後に北京訪問のたびに時間を作ってお会いくださる自動化学会製造技術委員会、現代物流信息网络工程研究中心等に籍をおく周曉光先生、本年5月中国大使館教育部を退職されましたが、今後は後輩の指導に力を注ぐと言われておりました。特に印象深い思い出は私の主催する中国語教室の餃子パーティーにご夫婦で中国人留学生と共に参加されました。奥さんが京劇の一端を披露されたことがありました。その折り、私に北京に来て自分の家にホームステイしてもらい京劇の楽屋裏見学に連れて行ってあげたいと言われました。

近い将来機会があれば、是非とも実現したいといまから楽しみにしております。今回の中国訪問では各地で立派な方々と意見交換ができました。国際善隣協会にとっては意義ある訪問でありました。関係各位に感謝申し上げます。

北京市・甘肅省訪問の旅 印象に残ったこと

澤村 宏 (会員・諮問会委員・環境委員)

26日、大使館表敬訪問。善隣協会が行っている甘肅省蘭州市と隣接する永靖県・康楽県での植林事業の内容・経緯などを説明し、小渕基金の活動の枠組みが変わっても、今後とも協力できるものがあれば参加したいなど説明した。環境担当の書記官は、先月に甘肅省蘭州市等に砂漠化防止状況の視察出張をしたばかりであり、中国の砂漠対策が話題になった。9月には内モンゴル自治区オルドスで砂漠化対処条約のCOP13が開催され、2030年に向けて砂漠化対処の戦略などが議論される予定になっており、その流れの中で中国政府が関係国や国際機関を視察に招待した由。砂漠化対処はもともとアフリカの砂漠対策から始まっているが、中国へも視点が移ってきている。対策は単なる環境の問題だけでなく、イ

ンフラ整備など生活向上につながるものであり人間の対処の仕方が問われている。また、一帯一路も背景にあるようだ。善隣協会のこれまでの植林事業の経験・実績などが生かされることを願っている。中国の環境政策をみると国内と国外に対するものがあるが、変化も大きく、その対応のために自分で動き出す時代になってきた印象をうけた。

(注) 善隣誌 10月号10頁17頁に「中国の環境問題」環境省井上直己氏(善隣公開フォーラム講師2017年7月3日)で国内状況の紹介記事あり。

中国は外に対しては世界の環境問題をリードしていくことを目指しており、国際会議を招くなど環境立国を示している。

5月には第40回南極条約協議国会議が北京で開催され、初めてホスト国となった。環境を配慮した調査などが議題であったが、政府高官も参加している。また、2020年に生物多様性条約の締約国会議COP15の中国での開催が決まっている。愛知目標後などがテーマとなる。

日本としてはこれまでの施策・実績などから貢献できることが多い分野である。会議開催を機に中国でも生物多様性の理解が市民のあいだでも進むことを期待したい。

なお、27日に訪問した「四不像センター」は、一度中国で絶滅した鹿の一種を復活させ、野生に戻す事業をしている。同センターの博物館には環境教育の機能もあり、生物多様性の視点からも多くのことを学ぶことができた。

(注) 善隣9月号に「四不像センター」の紹介記事あり。

◎大使館で面会した方 福井貴規 一等書記官、増田正悟 一等書記官

中国旅行

渡邊澄子(会員)

前泊を含めて7月21日から29日まで本会企画の「日中国交正常化45周年北京市・甘粛省訪問の旅」に参加した。中国の広大さは無辺だ。これまで各地を経

巡っているが甘粛省ははじめて。北京經由で蘭州へ。この度の旅行の目的は永靖県と康楽県の2か所の植林地現場訪問なのだ。日中友好に植林が有効手段である意味を私はまだ充分に理解し得ていない。だが、すでに大きく茂っている所、1メートル位に育っている苗木が続いているのを眺めるのは楽しく、植林の重要性が何となくわかった。康楽県の康楽の意味をガイドの学生に聞くと健康で楽しい街の意味だが、楽しいの中味は分からないと笑った。感動のあまり3度も行った大同の雲崗石窟を見ている者としてはここでの石窟見学は大回りして歩くほどのことでもないとい中で呟いてしまった。

はるかに見上げる山の頂上のお寺まで続く石段を意地になつて登り詰めた白塔山は思い出に残るだろう。麋鹿苑は興味津々で世の中にこういう動物がいたということを知った仲間に吹聴するつもり。意義深かったのは最期の訪問先となる、CRI

「中国国際放送局」だった。説明してくださったのはこの看板キャスターという王小燕さんで、前日、何故なのか発言禁止を言い渡されていたが発言してしまった。その後の職員食堂での昼食交流会の時、お役目上忙しく立ち回っていらした王さんが私の席にいらして、ゆっくり話せないのが残念で口惜しい、もっといろいろ話し合いたいと、あれこれ聞かれ、私も応じてあれこれ話し、話題が核問題になったとき林京子についての本を読み、日本に行った時、逗子の林さんのお宅に伺ったと聞き、あら、その本は私が書いたもの、と、仲好しの林さんのお宅には何度も行っていることなど話が弾んだが、時間が無い。北京にいらっしゃることがあったら必ず、きつとですよ、連絡して欲しい。ゆっくりいろいろ話したい、と私の手をぎゅっと握って職員に呼ばれて立ち去った嬉しい嬉しい一幕で私の中国旅行の旅は締めくくられた。

蘭州へ北京移動の でき事

(最新中国宅配便事情)

塚原美津子 (会員・諮問会委員)

旅程5日目「蘭州」のホテルを早朝、食事も取らず慌ただしく飛行場に急いだ。北京行きの国内便に乗るために並んでいたらとき、愛用のスマホが無いことに気付いた。当日はいつもの通り懐中電灯と共に目覚まし機能をセットして枕元に置いたことを思い出したまではよかったが既に搭乗寸前、ホテルに取りに戻るわけにはいかない。事情を察した八島さん、村田さんが、それはそれは根気よく、面倒も厭わずホテルに電話してくださる私の記憶通りのところに有ることが判ったうえ北京の旅行社まで送ってくれるよう交渉までしてくださった。しかし内陸部の蘭州から北京に無事届ける方法があるだろうか？ スマホは端末本体内部にリチウムイオン電池内在のため荷物として空輸

できない。陸路トラックで運ぶが帰国する29日までには不可能だという。この時点で腹は決まった。必要な情報をしっかり詰め込んだスマホが手許に無いのは本当に不便極まりないし連絡が取れなくてどれだけ人に迷惑をかけるかもしれない。が、ハンドキャリーしか方法がないなら帰国したらすぐ、おとなしく私を待っている我が子(愛用スマホ)を迎えに来ればよい。ちょこちよこ中国に出張する友人に頼もうかと思いをめぐらしたとき、八島さんが「今度北京に来るとき受け取ってあげるよ」と言ってくださっている。有難いことですが、これ以上お言葉に甘える訳にはいかない……ひらめいた!! そうだ2泊3日なら学校を休ませなくてすむ。小学校2年生の孫を連れて、かねて彼としたかった北京ブラがてら迎えにくればよい。不安も落ち込んだ気分も吹き飛んで何だか楽しくなってきた。

そして3日間北京での訪問・見学・友人との再会を楽しんだ

夜、もう一人の友人と食事中に旅行社から連絡が入った。「トラック」に載せてあるはずの荷物番号をたどって、何回も何回も所在を確かめたところ、間もなく王府井の旅行社に配達されるといふ。今どきの若者ではないが、恥ずかしながら私の口から「うそ!!」。食事中の友人(中国人)を矢野さん所崎さんにお願ひして約束した駅まで走りて走って改札口の棚越に旅行社の彼女とハグ・ハグ……。周りの人達(中国人)は何と思っただか。人の目なんか眼中にない。彼女に充分に御礼をいい、手許に戻った我が子(愛用スマホ)には、ごめんねと謝った。私の不注意により皆様のお手を煩わせ、ご心配をおかけし、また温かい優しさにも感謝し、現在の中国の流通(インフラ)の一面をちょっとだけ覗いたハラハラ・ドキドキ・ニコニコの旅でしたが帰路・CA国際線・羽田行き機内で突然キャビンアテンダントが私の席にワインとケーキと祝に「生日快樂」と書いた

「誕生カード」を持ってきてくれ祝ってくれて私にとって忘れられない「7月29日」となった。それにしても13人のお仲間、世話をしてくださった方、旅行社のスタッフ、蘭州理工大のお2人の学生さん、再会した友人達、訪問先の方々、道で声をかけた見知らぬ人々、楽しい旅がありがとうございました。発展著しい中国の宅配便・流通、広大な国土の流通網に注目しました。

甘肅省・北京

訪問の旅

山路靖雄 (善隣誌友)

山路スミ (群馬県前橋市在住)

第1日早朝 意気揚々として羽田空港に向かったが、CA中国国際航空便出発が1時間遅れたため、北京空港での乗継便に間に合わず、北京空港で8時間待ってMU中国東方航空便で蘭州に21時半頃、到着した。植林地・永靖県城での県林業局招待夕食会に出席できず、深夜12時過ぎ植林地に近いホテルに到着

した。善隣協会の植林地・2か所「永靖県劉家峡庫中日友好林」「康楽県中日友好生態緑化示範林」を見学した。立派に成長した樹木を見て現地の人々のご苦勞に感謝します。

北京での日本大使館・中国文化部・中国生物多様性産業連盟・中国生物多様性保護研究中心・北京市麋鹿生態実験中心・中国国際広播電台・中国科学技術交流中心の見学・訪問は何れも有意義でした。北京市麋鹿生態実験中心では初めて「四不像」を見た感激は忘れません。中国国際広播電台では日本語部のアナウンサー王小燕さんの案内で局内を見学し、北京放送42年の歩み聞き、1973年の長野県志賀高原で行われた日中友好青年キャンプに北京放送から「連帯のメッセージ」が送られたことを懐かしく想い出しました。

当日、王小燕さんから紹介された日本・中国の人物アニメーションの創立者・持永只仁の東京近代美術館での展覧会を帰国後見学し、会場から持永氏の娘さん

と共に彼女に電話しました。

観光では蘭州から西南約130km黄河三峡の一つ「劉家峡水庫」を高速モーターボートで往復し世界文化遺産「炳靈寺石窟」見学、蘭州市内では白頭公園・中山鉄橋・水車公園・五泉山公園・甘肅省博物館を訪問しました。この旅では雄大な「黄河の流れ」を堪能できました。またバスで移動中、車窓から見る甘肅省独特の「山肌の地形」に眼を見張りました。

今回の旅行で、善隣協会の幅広い公益活動について再認識した。永年にわたる国際交流活動、ご苦勞様です。この旅行の企画から実施までして頂いた村田氏に感謝します。

善隣中国旅行の総括 (中国人との現地交流)

村田嘉明 (旅行幹事・会員・国際交流委員)

善隣・国際交流委員会では中国西北部甘肅省植林地(3か所)訪問の旅行計画を5〜6年前から立案していたが実現できなかった。

た。甘肅省舟曲県(四川省北部・九寨溝県に近い)と省都・蘭州に近い「永靖県」「康楽県」。

本年2月頃から旅行計画を立て、3月の八島顧問の甘肅省植林地現地出張時に現地旅行社及び甘肅省林業局、永靖県及び康楽県林業局訪問の際、旅行行程、宿泊ホテルなどを調査依頼した。3月に旅行日程が決まり、善隣誌面などで参加者を募集し、3月末に旅行参加者13名が決定、4月初旬、航空券(国際便&国内便)を旅行代理店経由せずCA中国国際航空で早期購入できた。

今回の旅行のコンセプトは日本の旅行業者・添乗員を付けない。観光地巡りなどのツアーではなく、甘肅省では現地林業局職員との交流、蘭州市内ではボランティア参加の蘭州理工大の学部生・院生が日本語ガイドと昼食会場と夕食会場の予約までしてもらった。中国北京の大手旅行社(2013年葫蘆島旅行で依頼実績有)で北京旅行社のガイドを「全日」つけた。甘肅省で

は現地旅行社を利用せず、甘肅省林業局職員(課長)が3日間、蘭州から専用車(バス)で現地植林地に同行(出張)してもらった。植林地は2か所とも臨夏回族自治州の中であり回族農民の集落をとり、多数モスク(回教寺院)が見られた。蘭州の南、約150kmの康楽県では日中友好夕食会に招待され熱烈歓迎を受けた。翌日「植林地」に案内され、自然風土の厳しい乾燥地帯に植林した樹木を確認できた。当日、康楽県城の林業局職員が多数、植林地場に参加し現地管理事務所で果物(スイカ・桃など)の歓待を受け日中友好交流した。日本人で甘肅省南部・四川省に近い康楽県まで訪問したことは大変意義深い。後半の4日間は北京で中国科技交流中心・中国文化部・生物多様性産業連盟・北京麋鹿生態実験中心・中国国際放送局を日中国交正常化45周年の年に表敬訪問した。7月29日夕刻CA167便で羽田空港へ定刻17時25分帰国した。